



日本の海(〇〇)道

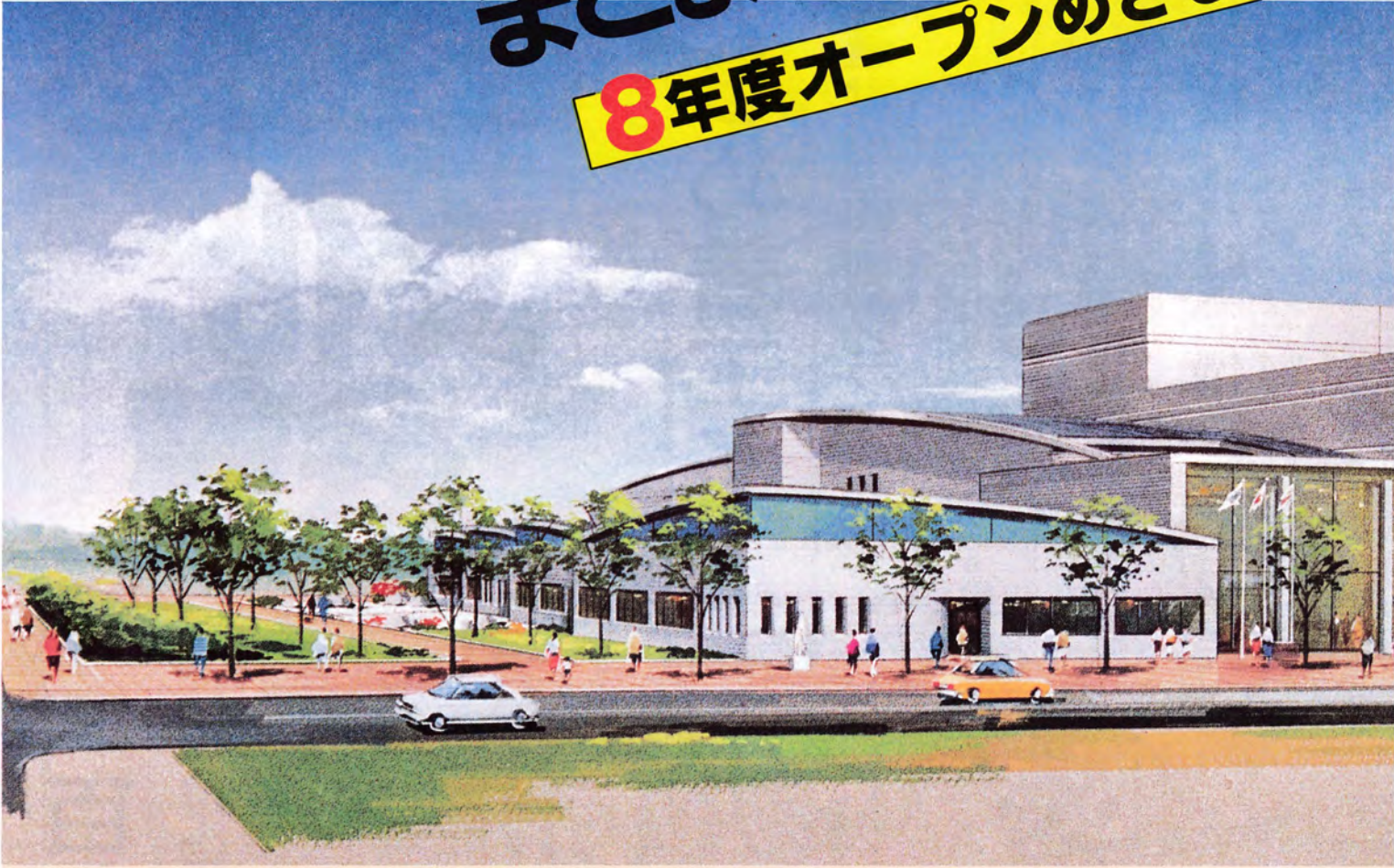
龍門港

かじき

特集号

基本構想  
まとまる!!

8年度オープンめざし



仮称 加治木町

文化会館

# 日本でトップクラスの音響設備

仮称

## 加治木町 文化会館

### 六年度はじめ着工予定

場所は町営運動場西側グラウンド

仮称「文化会館」の建設は、総合的な構想がまとまり十月から実施設計に入り、いよいよ六年度に着工されることになりました。

場所は町営運動場の西側グラウンドで、建物は鉄筋コンクリート造二階、一部三階建て、総面積七、一〇八㎡、総事業費約四二億円。そのうち建物本体は約二八億円、残りの約十四億円は舞台機構、音響・照明設備、外構工事及び備品購入に使われます。

施設は八〇〇人程度の固定席を有するメインホールと、多目

メインホールは間口十八m、奥行き十五m、高さ九m。さらには、両ホールもそれぞれ音響を重視したすぐれた設備になっています。

また、町民の長年の夢であった中央公民館の機能を併せ持ち、絵画や彫刻、町の特産品などを展示するギャラリーやリハーサル室、研修室、工作室、視聴覚室なども確保され、町の教育方針でもある生涯学習に適した多目的ホールとして、いろいろな活用が期待されます。

特色としては、これまでの福祉センターとは比較にならない

に最適な音響設備を有する日本でもトップクラスの音楽専門ホールとなります。

そのため、今後有名なクラシック楽団の招へいも可能になり、地元の加治木でレベルの高い芸術的な音楽を楽しむことができます。

また音楽だけでなく、バレエや講演、落語、芸能発表、ピアノ教室の発表会、日舞の発表会などのときは、音が割れたりこもったりしないよう、その都度自分たちの催しものに適した音響に変えることができるのです。

### 「百年の計」を秘め

#### 文化の花を 咲かせる舞台づくり

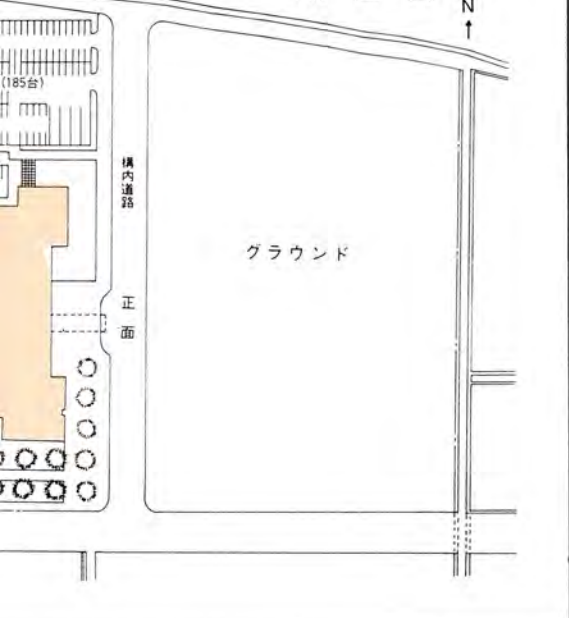
まちづくりとは、目先のことばかりだけでなく、百年先の将来を見越した「百年の計」を立てることが大切です。

そのため町としては、その百年の計を胸に秘め、個性あるグレイドの高い教育と文化の町を築くため、住んでみたい魅力あるまちづくり、豊かな感性を持った魅力ある人づくりを柱に、二十一世紀の加治木を担う子どもたちの文化活動の拠点づくりと位置づけ、歴史ある文化の継承とともに、新しい加治木の文化の花を咲かせる舞台づくりとして、文化会館の建設に踏み切

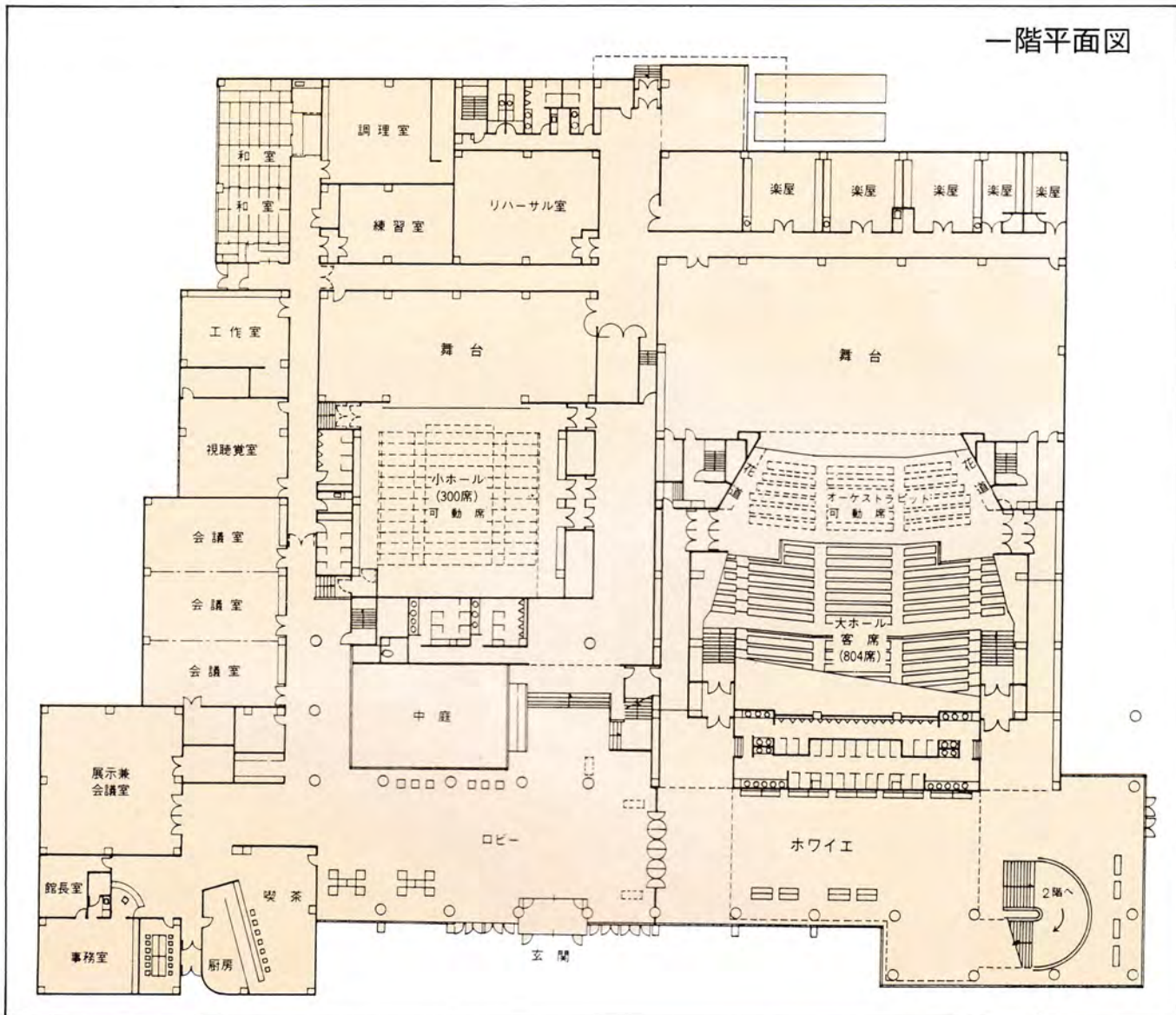
りました。

また、中央公民館建設推進委員会の「公民館機能を有する文化会館を」という答申と、先の実施した住民意向調査で「音楽などを中心とする文化会館の建設を」というニーズが高かったことなどもあり、さらには、これまでいろいろなイベントや会合などを行ってきた福祉センターの老朽化などを考え合わせた結果、懸案であった中央公民館機能を併せ持った、クラシック演奏などの専門楽団を呼べる立派な音楽専門ホールとして設計されることになりました。

配置図



一階平面図



的に利用できる一〇〇〜三〇〇人の電動式可動席のサブホールを併設。舞台もそれぞれ広く、

「すばらしい音響効果」を誇り、さらにオーケストラピットも確保されており、クラシック演奏

めざして六年度はじめに着工、七年度末に完成する予定です。

# 42億円の内訳

39億円は地方債  
残り3億円は  
町の積立金で…

財源は

約42億円		
30億円	9億円	3億円
国	県 (予定)	町

この事業は、自治省がすすめる地域総合整備事業債の「まちづくり特別対策事業」として採択されました。これにより、総事業費約四二億円のうち約三〇億円の借り入れ（起債）が認められ、返済金の約五十％を国が財政支援（交付税）してくれることになりました。また、県の市町村振興資金で約九億円の借り入れ（無利息）も認められる予定で、町は残りの約三億円を負担することになりますが、この負担分については、これまで国から交付された「ふるさと創生資金」を、文化会館建設費として町有施設整備基金に積み立てていますので、この中から充当する計画です。したがって、公共事業や住民福祉、教育関係などへの影響はほとんどないと思われます。運営面については、全国音楽ホールネットワークや他県自治体とも連携し、いろいろなイベントを開催していく予定です。

